

費用の範囲や取り扱い・比較対照のあり方について

論点

1. 費用の範囲や取り扱い : 公的医療費のみか、他の費用を含めるか
2. 比較対照の選択 : 複数の既存医療技術からどれを選択するか

1. 費用の範囲や取り扱い

(案)

- 費用の範囲は公的医療費を原則としてはどうか。(当該医療技術の費用のみならず関連する医療費を含む)。ただし、評価対象の医療技術のもたらす効果が介護にも影響が大きい場合には、公的介護費用を含めることにしてはどうか。
 - 生産性損失等は、原則として含めずに評価を行うものとしてはどうか。ただし、治療直後の休養期間など、ばらつきや推計方法による差が小さい等の場合は、参考データとして生産性損失を含めた費用を添付することができることとしてはどうか。

(理由)

- 諸外国においては生産性損失を含めない分析の提出を求めており、生産性損失等を含めると、ばらつきや推計方法による差が大きいと考えられるため。

2. 比較対照の選択

(案)

- 評価対象の医療技術が導入されることにより最も代替され得る医療技術を比較対照とすることを原則としてはどうか。
- なお、上記の比較対照技術に関するデータが入手困難である場合には、別の比較対照の選定について柔軟な取り扱いとしてはどうか。

(理由)

- 最も代替され得る医療技術を比較対照とすることにより医療全体への影響が的確に把握できるため。